



# 森林ボランティア 第11号

兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会

## 最近の兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会は

会長 桑田 結

最近の委員会は、委員全員が兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会の底上げを目指して頑張っています。それぞれのフィールドの性格は違っても、森づくり、それを支える人づくりに努力しています。

フィールドは日々その姿を変えています。日々自然とのたたかひになります。通いなれたフィールドですが、日々姿を変えて私たちを迎えてくれます。このように訪れるたびに、その姿を変えるフィールドですが、私たちはその変わりように細心の注意を払いながら活動を続けています。

会員の減少については、先年の定年延長と近年の不況により入会者が減っているのが現状であります。

どのクラブでも新入会員の獲得に苦勞しています。更に、会員の高齢化により自然退会者が増えています。

ここで私の提案ですが、フラッと森に遊びに来るシニア会員制を作って欲しいと思います。孫の手を引いて、フラッと森に遊びに来るおじいちゃん、おばあちゃんを迎えて欲しいのです。私たちの目標は森づくりと共に、森でゆっくりと時を過ごすことでもあります。究極の森づくりは、このような森ではないでしょうか。是非ともご検討いただきとう御座います。

環境体験学習の最大のネックは、教育分野と森林分野の壁にあると思います。先生方は年間通じて教えています。その一部分が森林での環境学習です。その部分を、教科書を飛び出して森に行こうと言う事です。そこに私たちのフィールドが登場するのであります。それが森林分野です。子供たちが何を求めてフィールドに来ているのか、事前に十分打合せをする必要があります。

例えば、ブナを植える会では交換シートを作成して、双方の希望、準備などを記入して確認しています。六甲山小学校の3年生、小代小学校の5年生と、対象が変わりますので、環境学習の内容に留意しています。

更に、協同作業者として、甲南女子大学シグマソサエティ部と滝川中・高校インターアクトクラブがあります。甲南女子大学シグマソサエティ部は女子大であり、既に大人の領域に入っていて紙芝居の上演や環境学習をお願いしていますが、我々にとっても勉強にな

る事が多々あります。もう一つは、滝川中・高校インターアクトクラブであります。みどりの少年団の交流集会などでは、お兄ちゃんリーダーとして大活躍です。

一方で穴掘りや物運びなど力仕事でも活躍してくれています。その間、彼らは彼なりに但馬地方や六甲山地の自然を上手く吸収しているようです。このように森の中はいろいろな人の学びの場でもあります。



滝川中・高校インターアクトクラブの記念植樹碑 (鉢伏高原)

前号10号からページ数を増やして、色々な会員団体の活動紹介に努めておりますが、団体毎に活動地状況に応じた様々な環境学習に取り組まれておられますので、皆さんも出来る事からお取り組み下さいませんか？

SDGsマークが昨今の流行語になっていますが、私たち森林ボランティアの原点は、全てSDGsに含まれています。何故今頃と言いたくなりますよね。きれいな水を求めて森づくりに励み、生物の多様性を求めて森づくりに励んできた人々にとっては、その結果が全て当てはまります。多くの森林ボランティアが無意識に行ってきた森林整備に費やしてきた日常茶飯の行事が、これほど大事なことだと今一度良く考えてみたいのです。

森林ボランティア講座についてですが、開設当時は十分に役に立った講座が、今では諸事情も変わっていると思いますので、主催者である豊かな森づくり課とも定期的に相談しながら、県民総参加の森づくりへの寄与と我々協議会会員団体への新入会者養成の場として、この講座をより好い講座となる様にして貰いたく思っています。是非とも、有効な成果を上げながら続けて欲しいです。



## 森づくりに貢献のあった団体・個人が次の賞を受賞されました（敬称略）

緑化功労者・国土緑化推進機構会長賞：伊與田安正（よこおみち森もりの会）  
ふれあいの森林づくり・国土緑化推進機構会長賞：兵庫ドングリ千年の森をつくる会  
全国育樹活動コンクール・国土緑化推進機構理事長賞：林田町里山会（5 頁の会員団体の活動紹介に掲載）  
河川愛護等功労者・国土交通省近畿地方整備局局長表彰：フォレスター松寿  
環境保全功労者知事表彰：こうべ森の学校・虫生川周辺の自然を守る会（6 頁の新会員紹介に掲載）  
ひょうご森づくり活動賞：ほくら〜ととや森の世話人倶楽部

### 兵庫ドングリ千年の森をつくる会（明石市）

この度は「国土緑化推進機構 会長賞」受賞する運びとなり、日頃より協力頂いている会員の皆様へ感謝いたします。

私たち「兵庫ドングリ千年の森をつくる会」は兵庫県明石市で 2001 年 3 月に発足し、今年で 20 周年を迎える団体です。活動理念を「今できること、私たちにできること、そして未来につながること」とし、身近な環境づくりを行う団体です。発足当初より明石城公園でのドングリ拾いから始まり、種まき・育苗し、4 月には地元の方々から植樹場所を提供して頂き植樹会を開催しています（20 カ所以上の土地に 2 万本以上の苗木を植樹）。その他には、6 月に役員での下草刈りを行い、現地での育苗を地域の方々と一緒にっております。

緑化活動・防災・獣害対策という本来の目的がありつつも、「植樹会・ドングリ拾い」を行うことで多くの人々が動き各地域との交流を深め互いを知ることのできる活動であると考えています。

この活動が持続できるのも県内外から入会して頂いている会員の皆様、役員として活動を支えて頂いている協賛企業のお陰です。近年ではコロナウイルスの流行もあり、各行事を役員のみで活動している状況でしたが、2 年ぶりに会員の方々と植樹活動を行う予定にしています。今後も緑化活動・地域交流を行い、より良い森づくりと地域交流に貢献できるよう運営してまいります。



第 20 回植樹会宍粟市にて 役員及び地元団体と

### フォレスター<sup>しょうじゅ</sup>松寿（神戸市）

フォレスター松寿は 2009 年 10 月にパナソニック 電工 O B 会の有志が中心となって設立され、六甲山での「松寿の森」づくりのため間伐作業、植樹・育樹、登山道の整備活動を行っています。六甲砂防事務所から受託した神戸市東灘区森北町の六甲背山の活動地では、砂防事業を通じて環境保全活動に注力している「森の世話人」として活動しています。

今回の「河川愛護等功労者表彰」は今まで取り組んできた活動について評価されたものと感謝しております。12 年間で約 1,150 本余り植樹したことになりますが、生き残る活着率は約 60%が実態です。継続した下草刈りをしないと植樹の苗木は育ちません。ネザサに覆われて瀕死の苗木を見ると心が痛みます。一方では立派に育って 6m 近くまで育っているものもあり、活動して良かったと実感される瞬間です。



KOBE 学生地域貢献スクラムの元気な大学生達

また例会活動には、地元住民はもちろん近隣の高校・大学からも自然に興味をもつ若者が多数参加しています。自然の中で活動する彼らが目を輝かせている様子は頼もしいばかりです。参加者の間口拡大を目的に、神戸市の「K O B E 学生地域貢献スクラム」にも積極的にエントリーし、六甲山の自然の大切さを、若者たちへつなげる活動にも取り組んでいます。

「日常の積み重ねがないと維持できない難しさと、だからこそ得られる達成感や充実感といった楽しみをもっと広く知ってもらいたい」というのが願いです。

## こうべ森の学校（神戸市）

コロナ感染防止の工夫を重ねながら何とか活動を続けてきましたので今回の受賞はたいへん励みになりました。感謝します。

私共は、六甲山緑化 100 周年を機に六甲の緑を更に豊かな森に育て未来に引き継ぐため、活動を担う市民ボランティアの育成、企業からの活動支援と参画、行政から活動地の提供と技術指導を三本柱として、2003 年 11 月に設立されました。

再度公園周縁の人工林・自然林の除間伐、山道の整備補修、苗木の育成・植樹などの活動を継続しています。市街地に近いことから、会員を中心にした毎週火・木・土の活動に加え、未経験者の方々も参加頂けるよう市民を対象にした月例会を開催。初参加者には、自作の安全マニュアルで手入れの意義や伐採方法の 1 日講習をします。学校の運営や日々の活動のお世話・指導を担っているのは 30 数名のスタッフです。経験豊かな方だけではありませんので様々な技術研修、救命救急講習、安全ワンポイントなどを企画し、技術・知識や危険回避への感覚を高めることに取り組んでいます。自然観察、育種・育苗と植樹、除間伐材利用の木工工作、炭焼き、キノコ栽培も楽しみ。中・高校、専門学校、大学、神戸市消防学校などが森林体験実習・環境学習に訪れてきます。

他方、蓄積した技術と人材をより広く活用すべく、東お多福山の草原再生・保全活動に参画、活動の場を広げ数年になります。その経験を再度山の活動にも活かし、六甲の豊かな森づくりに貢献していきたいと考えています。



コロナ下の月例会 体操もマスク着用・ソーシャルディスタンス 風邪をひかぬよう ケガせぬように！

## ほくら〜ととや森の世話人倶楽部（神戸市）

この度、倶楽部発足後初めての受賞が「ひょうご森づくり活動賞」でありました。設立後 8 年目にして頂くことができました。関係各位に感謝申し上げます。

当倶楽部は国・県が進める六甲山系グリーンベルト整備事業の一環として、森林の防災機能の強化と自然豊かな生活環境の創出を図るため、「森の世話人」としてヤマザクラの植樹活動や当該事業の普及啓発活動を行っています。「人をつなぐ・地域につなぐ・次世代につなげる」を活動理念として、神戸市東灘区の保久良～魚屋道エリアで活動する有志 13 団体及び地域住民が連携して活動しています。過去 6 回の「ヤマザクラ一斉植樹会」で岡本六甲背山の登山道沿いに累計 350 本を植樹し、育樹活動を継続しています。また、4 月には一般参加イベントとして「岡本回廊を巡るお花見ハイク」を開催しています。これは植樹したヤマザクラを見ていただくとともに、道中では講師の方から説明を受ける自然観察会を実施して、普段は見過ごしている都市山六甲山の素晴らしさを参加されたみなさまに知っていただく機会にしています。



老若男女一緒に皆で愉しく植樹

前号（第 10 号）で案内された神戸市が地域活動に参加した学生を支援しようと K O B E 学生地域貢献スクラムをスタートさせましたが当倶楽部もこれに参画し、今年度も継続して若い元気な学生達に参加していただいています。

今回の受賞を励みに、「岡本（ほくら〜ととや）桜回廊づくりプロジェクト」をより一層、地域住民や新しい仲間と一緒に進めて参りたいものです。

## 会員団体の活動紹介

### 平松区森林愛好会（丹波市）

長年にわたり放置されてきた森林が、里山で暮らす住民生活にも影響する様になり、道路や林道はもちろん民家にも竹木が覆いかぶさり、林内は暗く鬱蒼として近づくこともできない危険な現状に見かねて何とか改善できないものかと思い平成 25 年に「平松区森林愛好会」として立ち上げたのが始まりです。

現在、21 名で毎月第 2、第 4 の土・日曜日を活動日として森林整備作業等を行っています。その甲斐もあって、約 8ha の森林はしっかりと整備され各方面からも見学や賞賛の声を頂く様になりました。

私たちの活動の特徴としては、森林を「整備する」⇒「活用する」⇒「育てる」⇒「管理する」のサイクルをコンセプトとして、下刈り、間

伐整備から薪づくり、木製品、椎茸栽培、竹チップ等森林資源の活用、販売や遊休農地の草刈り、庭木の剪定、支障竹木の伐採整備に至るまで多岐の活動を行い収益も得ながら自立的な運営を目指し SDGs の実践にも努めています。



竹林伐採

このため、ボランティア活動としては、賛否両論があると思いますが、活動内容から動力機械は必須アイテムであり、作業そのものが成り立たないため、会員の自己責任意識を高め能力に応じた作業分担をしながら、安全第一で取り組み各種動力機械をフル稼働させています。

チームワークやコミュニケーションは作業の安全、円滑、品質等の向上を図る上で最も重要な要素であることから、定時のコーヒータイムを設け作業の進捗、達成感やヒヤリハットなどの情報を語り合いながらやる気モードを高め地域やお客様等への社会貢献に全力投球しています。



間伐整備

### 東お多福山草原保全・再生研究会（神戸市）

東お多福山草原は 1940 年代まで採草地として利用され、キキョウ、オミナエシ、スズサイコなど草原生植物の多様性の高いススキ草原として維持されていたが、その後、草地の利用がなくなり多様性の低いネザサ草原に移行した。草原の面積も 82.9ha あったのが 9.2ha まで減った。また、ネザサも高さ 2~3m となり、大阪湾の眺望も悪くなった。

そこで、ススキ草原の復活、草原生植物および生物多様性の保全、東お多福山からの眺望の確保のため、2007 年から「ブナを植える会」、「日本山岳会関西支部」、「六甲楽学会」、

「芦屋森の会 2001」の団体によるネザサの刈り取りが始まった。本会が創設されたのは 2011 年になってからである。本会は個人会員を排除していないが、主として団体会員を基本としている。これまで、いくつかの会員団体の入れ替わりがあったが、現在では、「ブナを植える会」、「日本山岳会関西支部」、「こうべ森の学校」、「西宮明昭山の会」、「マスターズ山登りの会」、「神戸植生研究会」、「東おたふく観察会」の 7 団体となっている。この活動に関して、兵庫県人と自然の博物館、兵庫県神戸県民センター、神戸市建設局公園部森林整備事務所、環境省近畿地方環境事務所に協力をいただいている。

本会は基本的には年 7 回のササ刈り活動と東お多福観察会による観察会を毎月実施している。ササ刈りには毎回 40~50 名の参加があり、多いときには 60 名になることもある。さらに、ササ刈りの効果を検証するために春と秋の 2 回植生モニタリング調査を行っている。ササ刈りの効果もあって、眺望の改善ができ、草原生植物の増加も確認できた。この活動に参加される団体を募集している。



東お多福山のササ刈り

## もりんちゅうの会（三田市）

数年前に阪神北県民局里山・森林課からの紹介で、三田市木器のS氏の170年経った立派な萱葺き民家を中心とする笛吹山の頂上まで含めた、圃場整備の行われていない田畑、戦前に手作りされた8つの溜め池と大径ヒノキ、スギ、カヤ、モミ、ホウノキ、タムシバ、他と孟宗竹林のある20haを超えた地の維持管理も行っています。

この地は約10年間放置に近い状態に置かれていました。S氏が昔育った時の様に歩ける山にしてもらえないだろうかとの相談があり我々グループが手入れすることになりました。

木器の地で、今年三田市里山のまちづくり課の資源循環型竹林整備事業にも参画しました。これは森林環境譲与税を使ったもので竹林問題解決のモデル事業です。放置竹林を皆伐するのではなく2mに一本残して京都の竹林の写真にもあるような美しい竹林にしてくださいと言うことです。また竹林を資源とみて炭にして販売し、毎年繰り返し使えるような形にしてください、それに



ステンレス炭焼き釜での竹炭づくり

市は補助します、でした。前年実施したグループからアドバイスをを受けて長野県のM製作所の1500φmmのステンレス炭焼き釜を使って（有償借り入れ）孟宗竹や伐採木の小枝を4時間焼き、最後に水を掛けて消して柔らかい炭の生産を行っています。この炭は農業の土壌改良材として販売されています。

また木器で市の企画で武庫川のソメイヨシノから地元のヤマザクラを植え替える計画にも協力しました。

ヤマザクラの同定には人と自然の博物館のI教授も来られてS氏の山を歩きました。5・6月頃、このヤマザクラの下に大きなブルーシートを敷いて種を採集します。数年後に武庫川沿いに植樹することになるでしょう。



立派な茅葺民家(S氏邸)前での集合写真

## 林田町里山会（姫路市）

林田は、古くは姫路と鳥取を結ぶ因幡街道沿いの宿場町として栄え、林田藩建部家一万石の城下町でした。実際に置かれていたのは、城よりも簡略な「陣屋」であったため正確には陣屋町となりますが、陣屋を中心に武家屋敷と町人地が林田町を形成していたことは間違いないようです。現在、陣屋跡には石垣や堀の一部が残るのみですが、因幡街道沿いには多数の古民家があり、また林田大庄屋旧三木家住宅や兵庫県下で現存する唯一の藩校「敬業館」など、当時の面影を今に伝える文化財があります。

林田町里山会はこの歴史に富む林田町で里山整備を含めたバランス良い活動で、県民との交流を図り、町の活性化を目指すべく、2009年（平成21年）に設立されました。

今回、国土緑化推進機構より表彰戴き恐縮しながらも会員一同喜んでおります。

下記に林田町里山会活動の現状と今後への課題、方針を報告いたします。

### 活動の現状

- ①年間2回（4月、10月）遊歩道の草刈り
- ②月間2回（1、3土曜日に）里山ハイキング実施（約1時間）
- ③3年に一度、里山の植樹及び剪定作業

### 今後への課題及び方針（計画）

- ①子供を含む、若者たちの会員拡大（現状平均年齢60歳以上？）



遊歩道と東屋(あずまや)



林田里山遊歩道散策ハイキング案内図

- ②魅力あるイベント（特に若い世代向け）の計画実行

- ③里山の間伐材を利用したシイタケ栽培と販売（活動資金調達）

- ④里山隣接の姫路市はやしだ交流センター（ゆたりん）とのコラボによる相互組織の活性化

天然温泉「ゆたりん」に接しており、また三つの池に面している山小屋をはじめ、全散策コースが無理なく楽しめますので、是非一度我々の整備した遊歩道散策ハイキングにお越し下さいませんか？

## 新会員紹介

めっこさん

### 雌岡山梅林を育てる会（神戸市）

「雌岡山梅林を育てる会」は雌岡山梅林の自然環境の整備と活用の実践・普及啓発活動を行い、多くの市民に憩いと癒しの場を提供し、来訪者、参加者の活動の輪を拡げ深めていき、平和で健康的に豊かな生活へ寄与する事を目的としています。

阪神淡路大震災 1995 年（H7）後荒廃していた梅林を、2003 年（H15）当会設立以来の活動で整備、再生に努め、大きな成果を上げ、眺望の良さ、広さ、梅の本数の多さなどから関西でも指折りの梅林と自負できるようになり、2015 年には景観の復旧、自然環境の保護保全活動を認められ神戸市環境功労賞を受賞しました。

主な活動内容は **\*通常活動** ①下草刈 ②整枝剪定 ③施肥、補植 ④環境整備（危険枝除伐、遊歩道整備等）⑤機械、器具整備等です。**\*イベント開催** 梅まつり、梅見食事会、梅実収穫体験会（一般来訪者と親睦、交流を深め、理解・協力・新規会員募集には絶好の機会となる）。**\*交流活動** 一般来訪者、近隣の施設、教育機関等の方々と交流を深め活動への関心を拡げていく事によって、地域社会に寄与することを目的としています。

2018 年から 3 年間国土緑化推進機構「緑の募金」様からの助成を活用し「子供たち未来のための森づくり」をテーマに子供達との交流、環境教育に積極的に力を注いでいます。

今後の問題点としては高齢化とこれに伴う会員の不足です。20 年に及ぶ先輩諸氏の活動を今後も永続させるべく新入会員の募集をしています。興味のある方は是非ご連絡、ご入会をお待ちしています。



明石海峡大橋・淡路島を眺めながらホッと一息

むしゅうがわ

### 虫生川周辺の自然を守る会（川西市）

私たちの活動地は、川西市清和台東にあり住宅開発で唯一残った残存林です。ごみの不法投棄、つる性植物、倒木、枯木、常緑樹で覆われていました。そこで 2011 年 7 月に地域住民で「虫生川周辺の自然を守る会」を立ち上げ、誰も通らなくなった里道の手入れから始めました。そうすると貴重な植物が次々と見つかりました。その一つが急斜面に沢山自生していたシロバナウンゼンツツジです。それらを保護する為の道づくりも始めました。急斜面に安全のため手摺を付け、5 年かかりでシロバナウンゼンツツジが見られる、眺めの良いルートで付けました。この道はシロバナウンゼンツツジの公開や清和台 2 校の小学校 3 年生の環境体験学習、清和台中学校のトライやるウィーク、一般体験会等でも行き来します。また大学の先生方のご協力で植生調査も実施し、生物多様性が豊かな森として 2014 年に兵庫県版レッドデータブック B ランクに、2018 年には川西市で重要な場所として、特別天然記念物に指定されました。北摂里山 31 選目に選ばれ、2021 年 6 月には兵庫県環境保全功労者知事賞をいただきました。活動地には、里道に沿って虫生川があり猪名川に注いでいます。虫生川にはホタルが生息しています。ホタルが沢山増えるようカワニナの育成にも努めます。これからも、森の保全活動や、環境体験学習の受け入れ、そして住民の憩いの場所になるように活動を続けていきます。



道作り 回りの枯木、常緑樹の片付け

## NPO法人奥播磨夢倶楽部（宍粟市）

当NPOは2014年に設立し、「情報発信」、「交流」、「環境保全」の3つのテーマを掲げて、持続可能な地域づくりを目指して活動しています。

「環境保全」の取組みは、2016年度から開始し、「1. 里山の保全」、「2. 果樹園管理」、「3. 里山再生と資源循環」の各事業を行っています。主な活動場所は、宍粟市北部エリアです。

「1. 里山の保全」では、防災機能の強化やCO<sub>2</sub>削減の実現を目指して、針葉樹林の間伐や下草刈り、広葉樹の植栽、堆肥づくりなどの作業を実施しています。敷地内には茅葺き古民家があり、交流拠点として活用しています。また、環境学習プログラムとして薪割りや竹細工などの体験プログラムを提供しています。

「2. 果樹園管理」では、遊休里地を果樹園として再生しました。果樹園オーナー制度を導入し、収穫体験や交流会を実施しています。また、果樹を使った加工品開発にも取り組んでいます。ブルーベリーやサクランボ、キウイフルーツ、イチジクを栽培しています。

「3. 里山再生と資源循環」では、持続可能な森づくりのための資源循環の仕組みづくりと人材育成のためのワークショップを実施しています。生態系の保全や生物多様性の大切さを体感出来るような学びの場となるように工夫しています。

ベテランのメンバーが経験を若い世代に継承し、活動の中心を若者が担えるよう世代交代を進めています。楽しみながら、持続可能な森づくりに挑戦しています。



間伐した木や竹などをパウダー状にして堆肥にするための作業をしています

## こうべ森の文化祭 2021（ひょうご森の日イベント）

令和3年10月24日（日）に神戸市と六甲山の仲間たち主催の「こうべ森の文化祭 2021」が再度公園で開催されました。秋晴れの好天にも恵まれて一般参加者が約1000名参加されました。参加団体は約20団体で、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会としてテントブースに出展参加致しました。

「こうべ森の文化祭」は平成14年の六甲山緑化100周年を記念してスタート。六甲山に関わる多くのグループが参加し、日ごろの活動内容を多くの市民に知ってもらい、森づくりの大切さを認識してもらうキッカケになればと考えられています。

今回は入場者に対して新型コロナウイルス感染対策のために検温を実施し、検温済シールによる見える化でより安心して参加頂く様に工夫がされていました。会場の再度公園のログハウス周辺にブースが展開され、活動内容をパネル展示したり木工作品を展示・販売や、六甲山の間伐材でペンダントづくり等盛りだくさんのイベントを実施しました。当協議会は神戸地区及び六甲山関連会員が主体となって、森林ボランティア講座の紹介及び参加メンバー団体の活動紹介をパネル展示しました。

合わせて実施された「クイズラリー」は子供たちを中心に大好評でした。当協議会出題クイズ「兵庫県の森林が面積に占める率はご存知ですか？」（答えは67%）全世界では約30%ですので、我々もSDGsにもつながる兵庫県の森づくりをもっと広げて参りたいものです。

再度公園での「ひょうご森の日イベント」に相応しく、家族連れが楽しく参加され、好評のうちに終了しました。



兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会のブース

## ひょうごユースecoフォーラムに参加しました

委員 山下 公明（あびき湿原保存会）

今年度の「ひょうごユース eco フォーラム」は会場を神戸から姫路に移して12月22日（水）に開催され、当協議会と「ブナを植える会」「的形ふるさと里山会」「あびき湿原保存会」が出展参加しました。開催日も従来の土・日曜日から平日に変わり、コロナの影響で若干の人数制限もありましたが、それでも6団体の事例発表、41団体のパネル発表と盛り上がった開催となりました。

事例発表の後、8～10人の班に分かれ高校生、大学生、環境保全、森林水辺の保全に取り組んでいる団体のメンバーとのグループディスカッションでした。これがメイン行事だと思います。普段なかなか、若い世代の人達と会話も交流の無い活動団体もあると思います。次世代の若者達と討議、考えを聞いていると考えさせられ我々の活動に得るものが沢山あります。今年参加されなかった団体さんも、事例発表、パネル展示で参加されるのがベストですが、グループディスカッションに参加され色々な世代の人達の思いを聞くことにより、自分達の活動の今後のヒントに成るものが沢山あると思うので、次年度の当該フォーラムに参加して欲しいと思う次第です。

何はともあれ、今回のフォーラムはコロナ禍の中、参加人数の制限もありましたが、次回につながるイベントであった様に思われます。ぜひ協議会員の皆さん、次回は参加して下さいませんか？



ポスター展示  
(兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会ブース)



「緑の募金」にご協力ください！

公益社団法人兵庫県緑化推進協会

森と緑は、二酸化炭素の吸収や水源のかん養などの働きを通じ、私たちの暮らしに欠かせない恵みをもたらしてくれています。このかけがえのない森と緑を守り育てていくために、「緑の募金」として家庭募金、学校募金、職場募金、街頭募金、団体募金、企業募金を県下各地で行っています。

<https://hyogo-green.net/>

なお、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会からの令和3年1月～令和3年12月の募金額は¥102,376でした。

### 郵便振込

手数料が不要になる専用の払込取扱票用紙をお送りしますので、(公社)兵庫県緑化推進協会へ直接お問い合わせください。

### 銀行振込

口座：三井住友銀行兵庫県庁出張所  
普通 3198438 (振込手数料が必要)  
名義：公益社団法人 兵庫県緑化推進協会  
問合せ：TEL 078(341)4070 FAX 078(341)4071

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

### 事務局から会員へのお知らせ

メールで助成金やセミナーなどの情報提供をしています。

未登録の団体で、希望される場合は以下のメールアドレスまでご連絡ください。

(担当：豊かな森づくり課 石森)

[yutakanamorizukuri@pref.hyogo.lg.jp](mailto:yutakanamorizukuri@pref.hyogo.lg.jp)

### 事務局 兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号  
兵庫県農政環境部農林水産局豊かな森づくり課内

TEL 078-362-3613

FAX 078-362-3954

会報に関する問い合わせ：桑田 結

〒657-0011 神戸市灘区鶴甲3丁目5番29-106

Tel/Fax 078-851-0291

携帯 090-3166-9785

e-mail [bunawouerukai.kobe@gmail.com](mailto:bunawouerukai.kobe@gmail.com)